

## 第2章 調査結果の要約



## 1 定住性

### (1) 〈普段の買い物が便利である〉が7割台後半、〈通勤や通学などの交通の便が良い〉が7割近く

ア 居住地域の評価については、全15項目のうち〈普段の買い物が便利である〉〈通勤や通学などの交通の便が良い〉〈快適で安全なまちである〉〈まちなかの花や緑が多い〉に加えて〈ごみがなく地域がきれいになったと感じる〉の5項目で肯定的評価（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が6割以上となった。

イ 〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉は、否定的評価（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が唯一6割を超えている。

ウ 前回調査と比較すると、15項目中14項目で肯定的評価が増加しており、〈景観・街並みが良好である〉〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉〈ごみがなく地域がきれいになったと感じる〉〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉の4項目で4ポイント以上の増加となっている。

エ 肯定的評価が7割台半ばと最も高い〈普段の買い物が便利である〉を地域別にみると、第7地域、第4地域、第6地域、第9地域で8割台と高い一方、第14地域が唯一5割台と低くなっている。

### (2) 【暮らしやすい】は本設問を開始して24年間で最高値を更新

ア 【暮らしやすい】（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）は86.2%で最高値を更新し、【暮らしにくい】（「暮らしにくい」＋「どちらかといえば暮らしにくい」）は、令和4年度調査と並んで12.2%と最も低い割合となった。

イ 【暮らしやすい】を地域別にみると、第6地域と第2地域で9割台と高くなっている。

ウ 【暮らしにくい】を地域別にみると、第14地域で2割台と他の地域に比べて高くなっている。

エ 【暮らしにくい】と回答した人に、その理由を聴いた結果、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」が4割台半ばと5年連続で最も高くなっており、次いで「交通の便が悪いこと」、「買い物がしにくいこと」、「治安が良くないこと」などとなっている。

### (3) 定住意向がある人は、8割超で前回調査をさらに上回り、4年連続で最高値を更新

ア 【定住意向】（「ずっと住み続けたい」＋「当分は住み続けたい」）は、令和3年調査で初めて8割台となって以降増加を続けている。

イ 【定住意向】を地域別にみると、第1地域で9割と最も高く、次いで第11地域、第9地域、第6地域が8割台後半で続いている。

### (4) 定住性全体について

ア 〈普段の買い物が便利〉〈交通の便が良い〉〈快適で安全なまち〉〈行きたい公園〉などの利便性や快適性と、〈まちなかの花や緑が多い〉〈ごみの減少〉〈景観・街並みが良好〉など美化意識の向上など多くの項目で肯定的にとらえられ、区全体としての暮らしやすさの高評価や定住意向の向上につながっていくものと考ええる。

イ 〈交通の便が良い〉〈まちなかの花や緑が多い〉については、割合が最も高い地域と最も低い地域の差が40ポイント以上あり、地域差が大きい項目である。

ウ 必要と考えられる今後の取り組み

〈自転車利用者の交通マナー〉と〈文化芸術に親しめるまち〉は【そう思わない】が5割以上と否定的評価が高く、取り組みのさらなる強化が求められる。また、〈交通の便が良い〉〈まちなかの花や緑が多い〉のように地域差の大きい項目については、地道ながらも推進していくことで、暮らしやすさを向上させ、区民の定住意向をより高めていくことに繋がると考える。

## 2 大震災などの災害への備え

### (1) 【備蓄・買い置きあり】は前回調査から6.5ポイント増加して7割台半ば

ア 食料の備蓄や防災用具の買い置きなどについては、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.7%で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が28.4%となっており、これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は76.1%となっている。一方、「特に用意していない」は20.4%であった。

イ 災害に備えての準備状況を経年で見ると、前回調査時から6.5ポイントの大幅な増加となっており、これは、元日に発生した能登半島地震の影響があると考えられ、東日本大震災直後の73%台をも上回っている。

### (2) 備蓄や防災用具の買い置きなどの内容では、「水」（9割超）、「食料」（9割弱）

ア 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容では、「水」が9割超、「食料」が9割弱、「あかり」が7割台半ばで上位3備蓄品となっている。それに続くのが、「簡易トイレ」と「電池・予備バッテリー」が5割台後半、「医薬品」が4割台後半となっている。

イ 前回調査と比較すると、「簡易トイレ」（+6.1ポイント）が大幅に増加している。

ウ 水と食料の備蓄量について、国の「最低3日分、できれば1週間分」という目標に照らすと、「3日以上1週間分未満」と「1週間分以上」を合わせた【3日以上】で「水」は約5割、「食料」は4割台半ばとなっている。なお、今回調査で備蓄量が大幅に増加した「簡易トイレ」については約4割となっている。

### (3) <場所>の認知は【避難場所】が3割台半ばで最高、<意味>の認知は【第一次避難所】の2割弱で最低

ア 前回調査と比較して、3種の避難場所すべてで<場所>と<意味>の認知度が高くなっており、【一時集合場所】増加幅が3ポイント前後、【第一次避難所】が2ポイント強で、【避難場所】の増加は微増となっている。

イ 地域的に見た特徴的な事として、第15地域で<場所>の認知が前回調査では【一時集合場所】と【避難場所】が15地域中最も低く、【第一次避難所】が2番目に低い割合だったが、今回調査では、【一時集合場所】と【第一次避難所】が15地域中最も高く、【避難場所】が3番目に高い割合となった。このことから、地域区民への周知の効果が現れたことがわかる。

ウ <場所>と<意味>の認知の低さは、避難行動の流れに大きく影響するため、【3種の避難場所】の<意味>と<場所>の認知度を上げるための周知の強化と、周知方法の工夫が必要である。

### (4) 大規模災害時の避難生活場所は「避難所」が5割、「別居している家族や親戚の家」が2割台半ば

大規模災害時の避難生活場所「避難所」（50.5%）が5割で最も高く、次いで、「別居している家族や親戚の家」（25.2%）であった。結果、大規模災害時に自宅に住めなくなった場合に避難生活を送る場所として、区民の半数が「避難所」を想定していることがうかがえる。

### 3 洪水対策

#### (1) 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」を【見たことがある】は9割超

ア 「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認識度が高い「見て、自宅の浸水深を確認した」(31.1%)と「見て、内容は確認した」(23.6%)と「見たが、内容までは覚えていない」(37.4%)を合わせた【見たことがある】は9割超となった。

イ 前回調査に比べて【見たことがある】の割合は2.2ポイント増加したものの、認識度が高い「見て、自宅の浸水深を確認した」と「見て、内容は確認した」を合わせた【内容を確認した】(54.7%)の割合は大きく変わらないことから、「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の存在の区民への周知もさることながら、自宅の浸水深の確認など、起こり得る水害への理解をより深めてもらうことが重要である。

#### (2) 河川はん濫時の避難場所を事前に決めている人は9割台半ば

ア 河川がはん濫する恐れがある場合の避難場所は、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が5割台半ばを占めており、次いで、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」が2割半ば近くとなっており、【決めている】(94.2%)は9割台半ばとなっている。一方、「決めていない」は4.9%となっている。

イ 地域別に見ると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は、第8地域、第6地域、第2地域、第11地域で6割台と高く、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」は、第15地域が3割で最も高くなっている。一方、「決めていない」は、第3地域と第5地域で7%前後と他の地域に比べて高くなっている。

#### (3) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由は「避難する場所がわからないから」が4割台半ば

ア 避難場所を事前に決めていない理由は、「避難する場所がわからないから」が4割台半ばで最も高く、次いで「河川のはん濫は起こらないと思っているから」と「自分や家族だけで避難することができないから」が1割台半ばとなっている。

イ 河川のはん濫リスクは地域別で違いがあり、各地域の回答数が少数のため参考となるが、「近くに避難できる場所がないから」は第1、第2、第3地域の合計では19人中7人と多く、第4～15地域の合計では50人中1人と少なくなっている。こういった地域の特性に沿った避難誘導の対策と周知が必要となる。

## 4 区の情報発信のあり方

### (1) 区の情報の入手手段として、「あだち広報」が7割台半ば、「トキメキ」が3割台半ば超え

ア 区に関する情報の入手手段としては、「あだち広報」が7割台半ばで、依然として他の媒体に比べて高くなっており、これに次ぐ「トキメキ」(37.5%)、「区のホームページ」(26.0%)、「町会・自治会の掲示板・回覧板」(23.5%)などとの間には大きな差がある。

イ 「あだち広報」「トキメキ」「町会・自治会の掲示板・回覧板」などの紙媒体は、年代が上がるほど割合が高くなり、「区のホームページ」「Aメール」などのICTを活用した媒体は壮年期で割合が高くなっている。

### (2) 必要なときに必要とする区の情報は【得られている】が7割台半ば近く

ア 区の情報が「必要なときに得られているか」を聞いたところ、【得られている】(「十分に得られている」+「ある程度得られている」)が7割台半ば近く、一方、【得られていない】(「得られないことが多い」+「まったく得られない」)は1割台半ばとなっており、この4年間は、【得られている】が漸減、【得られていない】が漸増傾向となっている。

イ 性・年代別に見ると、【得られている】は女性の30～50代で8割強と高く、逆に男女とも18～29歳で5割台半ばと低くなっている。また、18～29歳の男女は「区の情報に関心がない」(男性：15.4%、女性：14.8%)で他の性・年代層に比べて特に高くなっている。

### (3) 区の情報が得られていない理由は「情報の探し方がわからない」が4割弱

必要なときに必要とする区の情報が【得られていない】と答えた理由としては、「情報の探し方がわからない」が38.7%と最も高く、「情報が探しにくい」(25.8%)と合わせると6割台半ばを占めており、この割合が令和2年調査以降で増加傾向にあることから、情報の探しやすさについて、なお一層の工夫が必要である。

## 5 健康

### (1) 区のキャッチフレーズを【知っている】は5割弱で最高値を更新

ア 『あだちベジタライフ～そうだ、野菜を食べよう～』について、「内容まで知っている」が1割台半ばで、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」（3割台半ば近く）を合わせた【知っている】は5割弱となったものの、「知らない（初めて聞いた）」（5割）をわずかに下回っている。

イ 区のキャッチフレーズの認知度を経年でみると、【知っている】は前回調査から3.1ポイント増加し、平成28年度調査の本設問開始以降で最も高い割合となった。

ウ 区のキャッチフレーズの認知度を性別でみると、【知っている】は女性（54.9%）の方が男性（39.9%）より15.0ポイント大きく上回っている。

エ 性・年代別でみると、【知っている】は女性の40代が6割台半ばで最も高く、50代以上で5割台と高くなっている。逆に男女とも18～29歳で3割台と低くなっており、若年層への周知が課題となっている。

### (2) 野菜から「食べている」人は初めて7割台となり最高値を更新

ア 糖尿病の予防には、“食事の最初に野菜をよくかんで食べることが効果的である”とされていることに対し、「(野菜から)食べている」人は7割、「食べていない」人は2割台半ば近くとなっている。

イ 「(野菜から)食べている」人の割合は、前回調査から4.1ポイント増加しているものの、野菜の摂取量については、前回調査から変動はみられない。

ウ 性別でみると、「(野菜から)食べている」は、女性（74.9%）の方が男性（64.0%）より10.9ポイント高くなっている。

### (3) 1日野菜350g以上の摂取は【できている】が4割強で、【できていない】（5割強）を下回る

ア 野菜の摂取量については、“1日350g以上”が目標とされており、実際に【できている】（「できている」＋「だいたいできている」）は4割強となっている。

イ 性別でみると、【(野菜の1日350g以上の摂取が)できている】は女性（47.4%）の方が男性（37.5%）より9.9ポイント高く、18～29歳を除く年代層で男性より女性の方が高くなっていることから、糖尿病の予防に対する知識の浸透・周知は、より男性にも届くような展開が重要である。

### (4) 自分は【健康である】と自認している人は6割台半ば

ア 自身の健康状態への認識は、「健康な方だと思う」が6割を占めており、「非常に健康だと思う」を合わせた【健康である】は、6割台半ばとなっている。一方、【健康ではない】（「あまり健康ではない」＋「健康ではない」）と感じている人は、3割台半ばとなっている。

イ 【健康である】を性別で見ると、女性の方が男性より4.5ポイント高く、性・年代別で見ると、女性の50代が8割弱で最も高く、逆に男性の30代と60代以上で5割台と低くなっている。

### (5) 「安心して受診できる医療機関がある」と【かかりつけ歯科医院を決めている】は3ポイント増加

ア 安心して受診できる医療機関が「ある」は2.9ポイント増加し7割台半ばとなっている。

イ 【かかりつけ歯科医院を決めている】は2.7ポイント増加し8割台半ばで、治療や入れ歯の作成・修理などのほかに受けているものとして、「歯石除去・歯面清掃」が6.2ポイント3増加し4割台半ばとなった。

ウ このことから、身近な医療機関とのつながりが増しており、日頃からの健康と安心に関する意識が高くなっていることがうかがえる。

## 6 スポーツ・読書

### (1) 【運動している】は6割弱、「30分以上の運動を週2回以上」は2割強

ア 日常的な運動・スポーツの実施状況をみると、「30分以上の運動を週2回以上」が2割強で、以下「年に数回（時間は問わない）」までを含めた【運動している】は6割弱となり、前回調査から微増となっている。

イ 性別で見ると、男性の方が女性より5.8ポイント高く、年代別に見ると、男性では18～29歳（8割台半ば）から60代にかけて割合が低くなり、女性では18～29歳（5割台半ば）から50代にかけて割合が高くなっている。

### (2) 継続的に実施している運動・スポーツは「ウォーキング」が5割弱で突出

ア 【運動している】と回答した人が、継続的に実施している運動・スポーツは、「ウォーキング」が5割弱で最も高く、これに「筋力トレーニング」が2割台半ば近く、「健康体操（エアロビクス・リズム体操・ストレッチなど）」が約2割で続いている。

イ 継続的に実施している運動・スポーツを性・年代別にみると、「ウォーキング」は男性の70歳以上と女性の40代で6割台半ば近くと高く、「筋力トレーニング」は男性の方が女性より10.3ポイント高く、「健康体操」は女性の方が男性より11ポイント高くなっている。

### (3) 運動していない人が運動・スポーツを行うためのきっかけは、「身近な場所で運動・スポーツができる」が3割台半ば近く、次いで「手頃な価格で施設を利用できる」が3割強

ア 運動・スポーツを行いたいと思うきっかけとなるのは、「身近な場所で運動・スポーツができる」（3割台半ば近く）、「手頃な価格で施設を利用できる」（3割強）、「レベルを気にせず参加できる機会がある」（2割強）が上位3項目となっている。

イ 前回調査と比べると、上位項目は割合が増加しており、「一緒に運動・スポーツできる仲間と出会う」が5.1ポイント、「手頃な価格で施設を利用できる」が2.9ポイント増加している。

ウ 運動・スポーツを行うきっかけを性別で見ると、上位3項目は女性の方が男性より高くなっている。

エ 運動・スポーツを行うきっかけを性・年代別にみると、「身近な場所で運動・スポーツができる」は男性の30代と女性の18～29歳が5割台半ばで高く、「手頃な価格で施設を利用できる」は女性の40代と18～29歳で5割台と高くなっている。

### (4) 最近1か月間に読書に関わる行動があった人は8割台半ば近く

ア 最近1か月間の読書に関わる行動状況は、【読書に関わる行動あり】が83.0%で前回調査とほぼ同じ割合となっている。

イ 行動内容では、上位5位の「本を読む」（45.8%）、「新聞を読む」（43.1%）、「雑誌を読む」（34.3%）、「漫画を読む」（30.1%）、「書店・古書店に行く」（27.4%）の順位に変化はない。

ウ 性・年代別に見ると、「新聞を読む」は年代が上がるほど割合も上がり、「漫画を読む」と「本などの通販サイトをみる」は年代が上がるほど割合が下がる傾向がある。また、「書店・古書店に行く」は男女とも18～29歳が最も高く、次いで40代が高くなっている。

## 7 ビューティフル・ウィンドウズ運動

(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を【知っている】が4割台半ば、「知らない（初めて聞いた）」が5割超

ア 足立区独自の犯罪抑止運動である『ビューティフル・ウィンドウズ運動』については、【知っている】（「知っていて、活動を実践している」＋「知っているが、特に何も行っていない」＋「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」）が46.7%となっている。

イ 設問開始からの10年をみると、【知っている】はわずかな増減を繰り返しつつ4割台で推移しており、この3年間は増加傾向となっている。

ウ 『ビューティフル・ウィンドウズ運動』に関する取り組みに【参加している・今後参加したい】（34.4%）は前回調査から微増しており、具体的な取り組みでは、「ながら見守り活動」、「まちの清掃活動」、「花の育成活動」、「不法投棄通報」が上位4位と順位に変化はない。

(2) 居住地域の治安状況が【良い】は5.1ポイント増加し6割台半ば

ア 居住地域の治安状況については、【良い】（「良い」＋「どちらかといえば良い」）が順調に増加を続けていたが、令和4年の刑法犯認知件数が5年ぶりに増加したことから、前回調査で6割を切ったが、今回調査では5.1ポイント増加し再び6割台半ばとなった。

イ 治安状況が【良い】について地域別にみると、第1地域、第6地域、第9地域、第2地域で7割台と高い一方で、5割台と低い地域が6地域あり、地域差がみられる。

ウ 治安が【良い】と評価した理由としては、「自分を含め、身近で犯罪に巻き込まれた人がいないから」が5割強と最も高く、次いで「防犯カメラが増えたことで、安心感があるから」が続き、「安全・安心パトロールカー（青パト車）など自主防犯パトロールの活動が活発で、安心感があるから」が「道路や公園の照明などが整備され、犯罪が起きにくくなったと感じられるから」と順位が入れ替わり3位となっている。

エ 治安が【悪い】と感じる理由としては、「自転車の交通ルールを守らない人や放置自転車を見かけることが多いから」約4割で最も高く、以下「歩きたばこやごみのポイ捨て等を見かけることが多いから」、「治安が悪いイメージがあるから」などとなっている。この上位3項目はいずれも、前回と今回調査で新設された項目であり、単純に経年比較はできない。

(3) 自転車の駐輪時に「いつも鍵をかけている」は、外出先が7割弱、敷地内が約6割

自転車を駐輪する際の鍵かけについては、「いつも鍵をかけている」は、外出先が7割弱で、敷地内が約6割となっており、前々回調査から大きな変化は見られなかった。

## 8 環境・地域活動

### (1) 環境のために心がけていることは「ごみと資源の分別」が約9割、次いで「不要なレジ袋を断る」が8割近く

ア 環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」が9割弱で今回も最も高くなっている。次いで「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(78.3%)、「雑紙を燃やすごみではなく、資源として出している」(57.5%)、「外食時に食べられる分だけ注文する」(55.7%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(52.9%)までが上位5位となっている。

イ 環境のために心がけていることについて、SDGsの認知度別にみると、「外食時に食べられる分だけ注文する」と「節電や節水など省エネルギーを心がけている」で認知度合いが高いほど、割合が高くなる強い比例関係が見られた。

ウ 環境のために心がけていることについて、SDGsの関心度別にみると、上位8項目すべてで関心度合いが高いほど、割合も高くなる比例関係にあり、その度合いは認知度よりも関心度で強く現れている。

### (2) 環境への影響を考えた行動は【行動している】が約7割

ア 環境への影響を考えた日頃からの行動については、「行動している」が21.0%で、「行動することが時々ある」(48.1%)を合わせた【行動している】は、微増し約7割となった。

イ 環境への影響を考えた行動を性・年代別でみると、【行動している】は女性の18~29歳、40代、50代で7割台後半と高くなっている。

### (3) この1年間の活動状況は、「特に参加していない・特にない」が4ポイント減少

ア この1年間に参加した活動(現状)と、引き続き、または今後参加したいと思う活動(参加意向)の割合をそれぞれ前回調査と比較した。

①「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」

(現状) 前回16.5% ➡ 今回23.6% (参加意向) 前回17.5% ➡ 27.0%

②「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」

(現状) 前回18.2% ➡ 今回21.7% (参加意向) 前回27.8% ➡ 30.9%

③「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」

(現状) 前回 8.5% ➡ 今回12.0% (参加意向) 前回14.5% ➡ 17.2%

④「特に参加していない・特にない」

(現状) 前回53.2% ➡ 今回49.6% (参加意向) 前回39.0% ➡ 38.6%

イ この1年間の活動への参加状況を前回調査と比べると、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、緑を増やしたり、育てる取り組み」が7.1ポイント増加したのを始め、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」と「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」が各3.5ポイント増加している。

ウ 引き続き、または今後参加したいと思う活動を前回調査と比べると、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」が9.5ポイント増加したのを始め、「区内・区外を問わず、文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会(映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む)」が3.1ポイント、「区内・区外を問わず、講演会や講座、サークル活動など」が2.7ポイントそれぞれ増加している。

## 9 「孤立ゼロプロジェクト」など

### (1) 「孤立ゼロプロジェクト」を【知っている】は3割台半ば近く、「知らない」が6割台半ば

ア 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況は、【知っている】（「知っていて、内容もおおむね理解している」（11.0%）＋「聞いたことはあるが、内容はわからない」（21.6%））が32.6%となり、平成25年の設問開始から最高値を更新した。

イ 【知っている】を地域別でみると、第15地域と第11地域で4割台と高くなっており、前回調査で最下位（10.3%）であった第15地域が43.4%で、最も高くなっているのが注目される。逆に第6地域で1割台半ばと、地域差がかなり大きくなっている。

ウ 【知っている】を性・年代別でみると、男性の18～29歳は平均値と変わらないものの、男女ともおおむね年齢が下がるほど割合も低くなっている。

### (2) 「地域包括支援センター（ホウカツ）」について、【業務内容を知っている】は5割

ア 地域包括支援センター（ホウカツ）の認知状況は、【業務内容を知っている】は50.7%で前回調査から7.4ポイント増加している。「地域包括支援センター（ホウカツ）は知っているが、業務内容は知らない」が16.6%、「地域包括支援センター（ホウカツ）を知らない」は30.5%となっている。

イ 業務内容別の認知は、「高齢者の健康や介護の相談」が4割台半ばで最も高く、次いで「介護保険サービスの相談」（33.1%）、「高齢者宅への訪問調査」（29.6%）、「介護予防教室や地域の居場所等の紹介」（24.3%）などとなっている。

ウ 【業務内容を知っている】を地域別でみると、第5地域で約6割と最も高く、第6地域で4割と最も低く、18.8ポイントの違いがある。

エ 【業務内容を知っている】を性・年代別でみると、女性の方が男性より13ポイント高く、おおむね年代が上がるほど割合も高くなり、女性の70歳以上で7割台半ばと高くなっている。

### (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動に【協力したい】は2割台半ば、【協力できない】は4割強

ア 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向は、【協力したい】は2割台半ばで前回調査から4.0ポイント増加した。

イ 性・年代別でみると、【協力したい】は女性の40代と60代で3割台と高く、男性の50代で1割と最も低くなっている。この極端な違いは、「協力したいが、時間などに余裕がない」（50代：46.2%・60代：20.9%）の割合の差によるもので、男性の60代は就業状況によって考え方に大きな変化があることがうかがえる。

### (4) 「フレイル」を予防する活動を【知っている】は5.2ポイント増加し6割近くとなる

ア 「フレイル」にならないために「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことの認知状況については、「知っていて、活動を実践している」が15.6%で前回調査時と変わらないものの、これに「知っているが、特に何もしていない」（43.1%）を合わせた【知っている】は6割近くとなり、前回調査時から5.2ポイントの増加となった。

イ 【知っている】を性別にみると、女性の方が男性より7.9ポイント高くなっている。

ウ 【知っている】を性・年代別にみると、女性では年代が上がるほど割合が高くなっているのに対し、男性では18～29歳から40代にかけて割合が低くなり、その後は割合が高くなっていることから、若年層よりむしろ男性の30～50代の年齢層に向けての周知が必要である。

### (5) 就業者における仕事と仕事以外の生活の調和が「取れている」は5割強で、「取れていない」と「わからない」が2割台半ば

ア 就業者における仕事と仕事以外の生活の調和について、「取れている」を性別でみると、女性の55.2%に対し、男性は48.3%と6.9ポイント低くなっているが、「取れていない」では特に大きな違いはみられない。

イ 同様に「取れていない」を性・年代別で見ると、は男性では40代（31.4%）、女性では18～29歳（31.0%）で3割台と高くなっており、男性の18～29歳（16.3%）で1割台半ばと最も低くなっている。

（6）言葉の「内容まで知っている」は「LGBT」と「身体的暴力以外のDV」が4割台半ば、「成年後見制度」が2割台半ば

ア【知っている】（「内容まで知っている」＋「聞いたことはあるが、内容は分からない」）は、「身体的暴力以外のDV」が8割台半ば、「LGBT」が7割強、「成年後見制度」が6割台半ばとなっている。

イ「内容まで知っている」を前回調査と比較すると、「身体的暴力以外のDV」と「LGBT」は10ポイント以上減少しているが、「成年後見制度」は微増となっている。

ウ「内容まで知っている」を性別にみると、「成年後見制度」と「身体的暴力以外のDV」は女性の方が男性より5ポイント以上高くなっているが、「LGBT」では特に大きな違いはみられない。また、「内容まで知っている」を性・年代別で見ると、「身体的暴力以外のDV」と「LGBT」は男女とも年齢が下がるほど割合が高くなっているが、「成年後見制度」は男性では年齢別の傾向はないが、女性では、50～60代が3割台で高く、18～29歳が1割台半ばと最も低くなっている。

## 10 「協働・協創」・「SDGs」

### (1) 「協創」の認知度は前回調査で3割となったが、今回は2割台と伸び悩み

「協創」について、「知っている」は7.6%で、これに「聞いたことはある」(19.6%)を合わせた【知っている】は27.2%で、前回(30.8%)の3割から伸び悩んだ。

### (2) “協働”“協創”の実践は、「関心はあるが、特に活動していない」が4.9ポイント増加

「協創」を【知っている】と回答した人に、協働・協創の実践状況を聞いたところ、「すでに、活動を実践している」は前回調査からの増減はないが、「関心はあるが、特に活動していない」は4.9ポイントの増加となっている。

### (3) “協働”“協創”が進んでいると感じるかについては、【そう思う】が前回調査から3.1ポイント増加

協働・協創が進んでおり、関心度も高まってはいるものの、協働・協創の実践に至っていない状況と言える。身近なところで始められるビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクトなどの具体的な活動の周知と動機づけが必要である。

### (4) SDGsの認知状況は、【知っている】が7割台半ば超で伸び悩み

ア SDGsの認知については、「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」が42.6%で最も高く、「内容まで知っている」(34.5%)を合わせた【知っている】は7割台半ば超で前回調査から変動はない。

イ SDGsの認知度を性・年代別で見ると、【知っている】は、男女とも18~29歳と30代、女性の50代で9割台と高いが、男女とも70歳以上で5割台と低く、この年代への周知が進んでいないことが課題となっている。

### (5) SDGsに【関心がある】が3割台半ば、【関心がない】が3割台半ば近く

ア SDGsへの関心状況を性別で見ると、【関心がある】(「とても関心がある」+「関心がある」)は、女性(39.2%)の方が男性(33.6%)より5.6ポイント高くなっているが、【関心がない】(「あまり関心がない」+「全く関心がない」)で見ると、女性(26.3%)より男性(41.6%)の方が15.3ポイント大幅に高くなっている。

イ SDGsへの関心状況を性・年代別で見ると、【関心がない】は、男性の40代以下と60代で4割以上と高く、女性の30~60代の各年齢層で2割台以下と低くなっている。

## 11 区の取り組み

### (1) 「足立区を良いまちにする活動をする人に共感」が7割台半ば近く、「足立区に愛着」が7割超

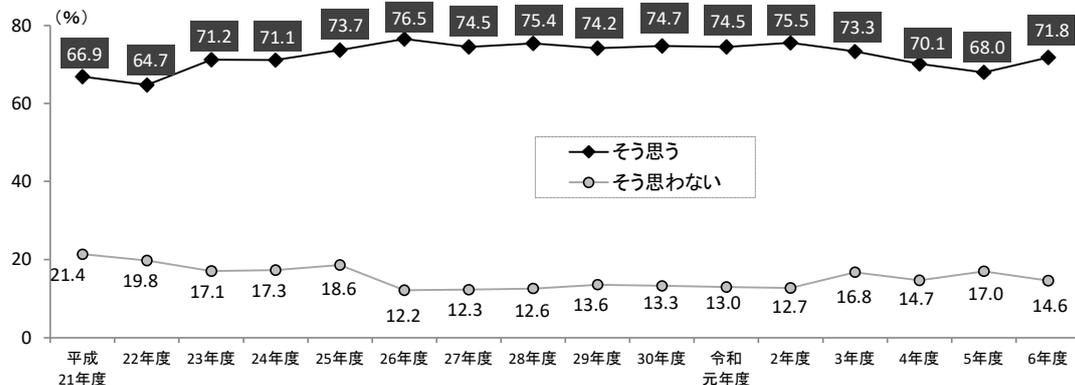
ア 平成21年度調査から今回の令和6年度調査まで16年にわたって経年で聴取している〈足立区に愛着をもっている〉〈足立区に誇りをもっている〉〈足立区を人に勧めたい〉の3項目について、今回の結果を【**そう思う**】（「**そう思う**」＋「**どちらかといえばそう思う**」）の比率でみると、〈足立区に愛着をもっている〉は71.8%、〈足立区に誇りをもっている〉は43.5%、〈足立区を人に勧めたい〉は44.4%となっている。

イ 経年でみると、【**そう思う**】は3項目ともこの3年間減少を続けていたが、今回調査では、〈足立区に誇りをもっている〉が5.9ポイント、〈足立区を人に勧めたい〉が4.8ポイント、〈足立区に愛着をもっている〉が3.8ポイントそれぞれ増加した。

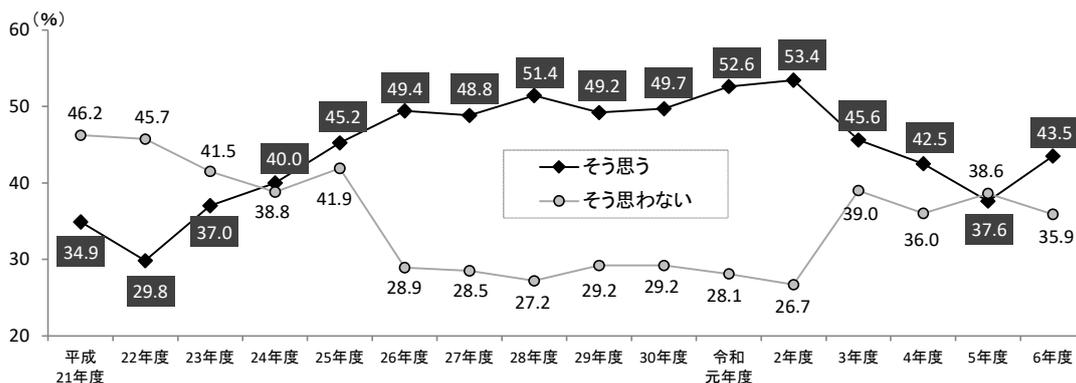
ウ また、〈足立区に誇りをもっている〉と〈足立区を人に勧めたい〉については【**そう思う**】と【**そう思わない**】の割合の値が同様に推移しており正の相関がうかがえる。

エ 居住年数別でみると、【**そう思う**】は〈足立区に愛着をもっている〉と〈足立区に誇りをもっている〉は居住年数が長くなるほど割合が高くなる正の相関がみられるが〈足立区を人に勧めたい〉については、どの居住年数別でも4割前後から4割台半ばと差がない。

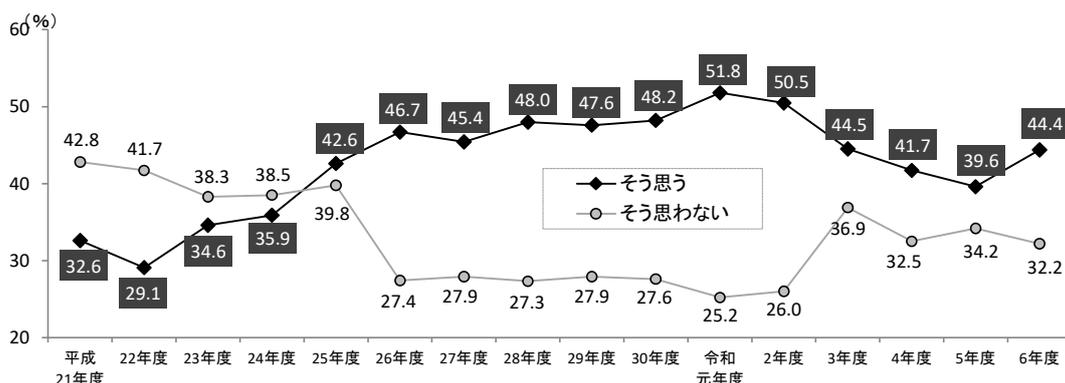
「足立区に愛着をもっている」



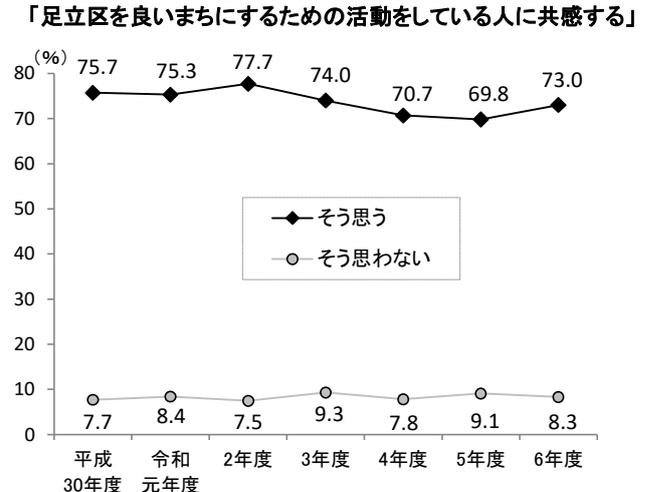
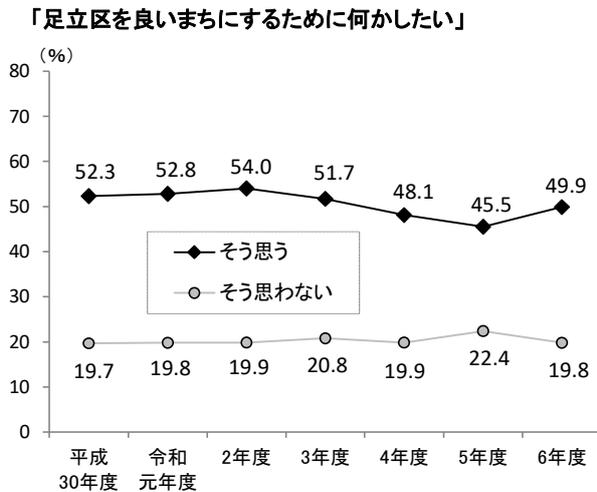
「足立区に誇りをもっている」



「足立区を人に勧めたい」



オ 平成30年調査から新たに聴取項目に加えた〈足立区を良いまちにするために何かしたい〉と〈足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する〉の2項目について、【そう思う】をみると、それぞれ49.9%、73.0%と、前記の3項目同様に割合が増加となっている。



(2) 区を良いまちにするための行動については、【行動しなかった】が6割超で、【行動した】の3割を大きく上回る

ア この1年間に「行動しなかった」が43.2%と最も高く、「どちらかといえば行動していない」(18.1%)を合わせた【行動しなかった】は61.3%となっている。

イ 「行動した」は11.7%に留まり、「どちらかといえば行動した」(18.6%)を合わせた【行動した】は30.3%となっている。

ウ 前回調査と比べると、【行動した】は5.7ポイントの増加となっている。

エ 区を良いまちにするための行動を区政満足度別にみると、満足度が高まるにつれて【行動した】の割合は増加し、『区政満足度』で〈不満〉と回答した層では【行動した】は12.2%に留まったが、『区政満足度』で〈満足〉と回答した層では【行動した】は42.6%となっている。

(3) 区の取り組みで満足している分野は、「情報提供」が4割強で最上位、次いで「自然・緑化対策」が3割台半ば超

ア 21分野の区の取り組みで、満足・やや満足と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「情報提供」が41.4%と最も高く、次いで、「自然・緑化対策」(37.4%)、「保健衛生対策」(27.3%)、「高齢者支援」(21.7%)、「職員の接客態度」(19.2%)などとなっており、前回と上位5位の順位に変動はない。

イ 区の取り組みで満足している分野について、性別でみたときに、男性の方が女性より高いのは9分野、女性の方が男性より高いのは12分野と分野数では大きな違いはなかったが、性差で3ポイント以上ある分野は、女性の方が高いのが4分野に対し、男性の方が高い分野はなかった。

a 女性の方が男性より3ポイント以上高い分野

「保健衛生対策」(+9.1ポイント)、「治安対策」(+5.0ポイント)、「情報提供」(+4.1ポイント)、「生涯学習振興」(+3.6ポイント)

(4) 区の取り組みで不満な分野は、「交通対策」が約2割で最上位、次いで「住環境対策」が1割超

ア 21分野の区の取り組みで、不満・やや不満と感じている分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果、「交通対策」が19.6%と最も高く、次いで、「住環境対策」(12.4%)、「都市開発」(11.8%)、「高齢者支援」(11.1%)、「低所得者支援」(10.1%)などとなっている。

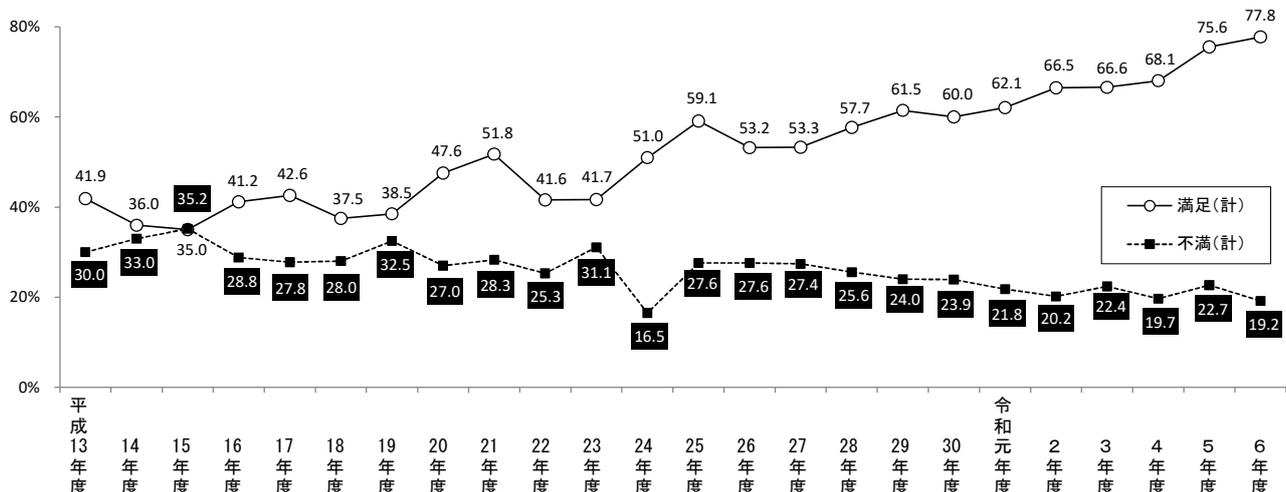
イ 区の取り組みで不満な分野について、性別でみると、区の取り組みで満足している分野に比べ、男女の差が小さく、女性の方が男性の割合より2ポイント以上高い分野はなかった。

ア 男性の方が女性より2ポイント以上高い分野

「情報提供」(+2.7ポイント)、「ICT活用」(+2.2ポイント)、「都市開発」(+2.0ポイント)、「高齢者支援」(+2.0ポイント)。

(5) 区政全体について【満足】は7割台半ば超で、平成25年※の設問開始以降の最高値を更新

ア 区政全体について、「やや満足」が64.5%と最も高く、「満足」(13.2%)を合わせた【満足】は77.8%となり、本設問を開始した平成25年以降で最も高い割合となっている。



※ 平成24年度までは「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「わからない」の5選択肢であったが、平成25年度以降は「わからない」の選択肢を除外した4選択肢となっており、単純に比較はできないが参考として掲載している。

イ 地域別でみると、【満足】は第15地域で86.8%と最も高く、次いで、第8地域(85.7%)、第13地域(83.1%)などとなっている。一方、【不満】は第12地域で27.9%と最も高く、次いで、第14地域(27.5%)、第11地域(25.9%)などとなっている。

ウ 性・年代別にみると、【満足】は、男性の30代で81.8%と最も高く、次いで、女性の30代(81.3%)、50代(80.8%)が続いている。一方、【不満】は女性の60代で26.4%と最も高く、次いで、男性の60代(25.6%)となっている。

(6) 今後特に力を入れてほしい分野は、「交通対策」が3割半ばで最上位、次いで「防災対策」が3割台半ば近くで続く

ア 21分野の区の取り組みのうち、今後特に力を入れてほしい分野について、数を制限しないで選んでいただいた。その結果「交通対策」が36.2%と最も高く、次いで「防災対策」(33.4%)、「高齢者支援」(32.6%)、「都市開発」(29.7%)、「自然・緑化対策」(26.2%)などとなっている。

イ 地域別でみると、第6地域は「防災対策」「都市開発」「自然・緑化対策」「治安対策」「子育て支援」「産業振興」の6分野で、第13地域では「高齢者支援」「障がい者支援」「ICT活用」「資源環境対策」の4分野で、第10地域では「低所得者支援」「職員の接客態度」「男女共同参画推進」の3分野でそれぞれ最も高い割合となっている。

ウ 性別でみたときに、21項目中13項目で男性の方が女性より割合が高くなっている。

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い取り組み  
「交通対策」(+4.7ポイント)、「低所得者支援」(+4.3ポイント)、「都市開発」(+3.6ポイント)、「情報提供」(+3.3ポイント)

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い取り組み  
「高齢者支援」(+3.3ポイント)

エ 年代別にみて区全体より5ポイント以上高くなっている取り組み

a 40代は、21項目中最多の6分野で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「学校教育対策」と「子育て支援」で10ポイント以上高くなっている。

b 18~29歳では、4分野で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「子育て支援」と「都市開発」の2分野で7ポイント以上高くなっている。

c 30代では、3分野で区全体より5ポイント以上高くなっており、特に「子育て支援」で17ポイント、「学校教育対策」で14ポイント以上高くなっている。

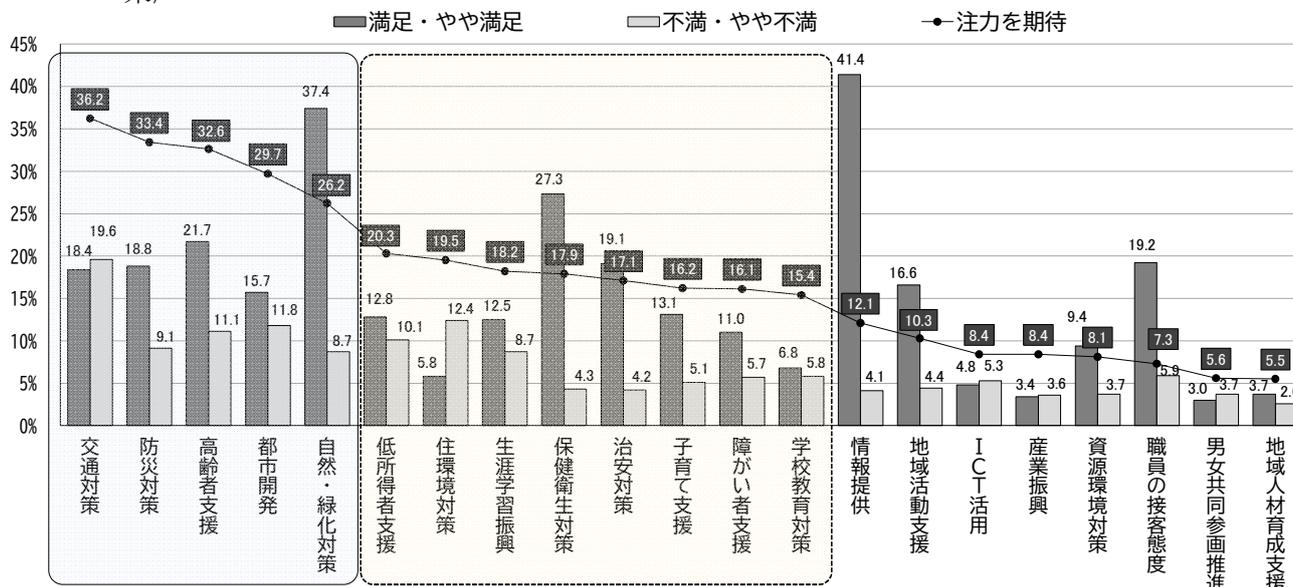
(7) 「満足評価」「不満評価」「注力を期待」の状況から見える、課題となる取り組み

ア 各取り組みに対する、「満足評価」「不満評価」「注力を期待」の状況を見ると、下記の取り組みが課題となっている。

a 「注力を期待」が大きく、「満足評価」より「不満評価」の方が大きいのは、〈交通対策〉

b 「注力を期待」が大きく、「満足評価」の方が大きいものの「不満評価」と大きな差がないのは、〈都市開発〉

c 「注力を期待」は中位だが、「満足評価」より「不満評価」の方が大きいのは、〈住環境対策〉

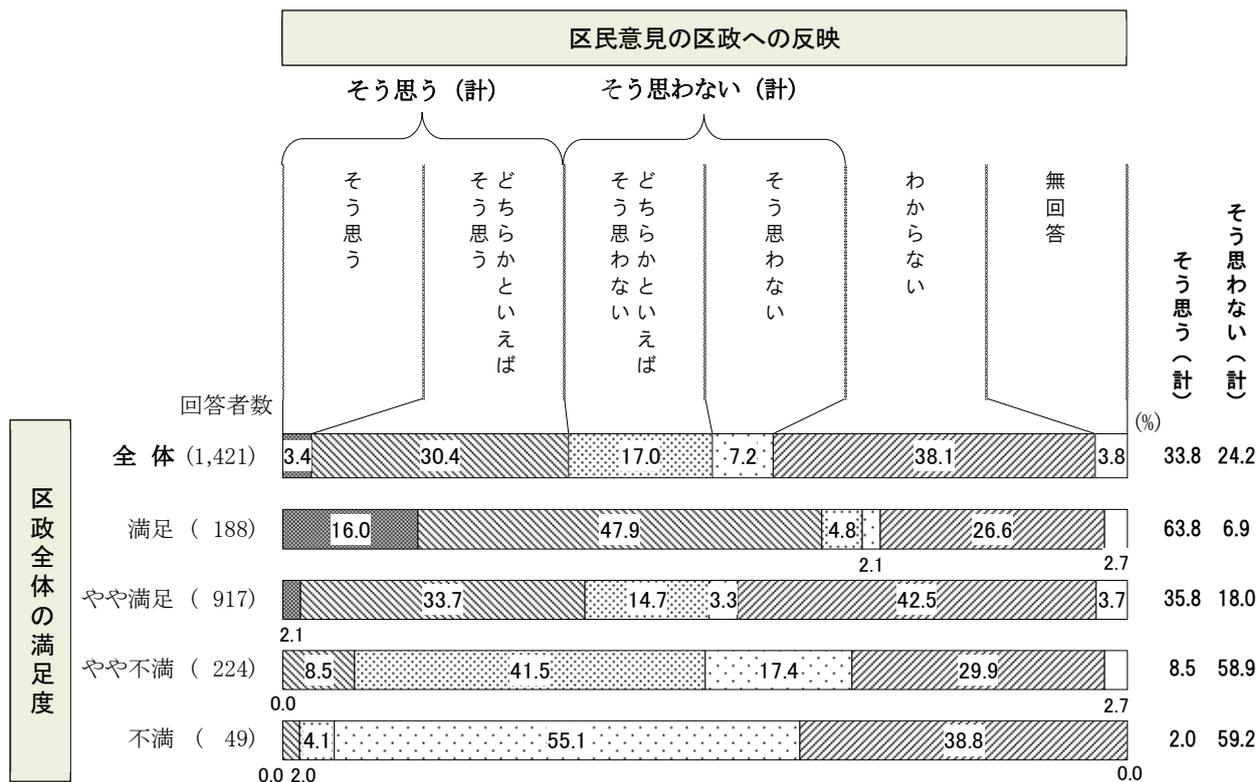


(8) 区政への区民意見の反映について、【そう思う】は4ポイント増加し3割台半ば、【そう思わない】は変わらず2割台半ば、「わからない」が4.4ポイント減少し4割近く

ア 区政に区民の意見が反映されていると感じているか聞いたところ、「そう思う」(3.4%)と「どちらかといえばそう思う」(30.4%)を合わせた【そう思う】は33.8%となり、「どちらかといえばそう思わない」(17.0%)と「そう思わない」(7.2%)を合わせた【そう思わない】(24.2%)を10ポイント近く上回っている。

イ 前回調査と比較してみると、【そう思う】が4ポイント増加している。

ウ 区政満足度別でみると、【そう思う】は、区政への満足度が増すほど割合が高くなり、区政に満足している層で6割台半ば近くと高くなっている。



## 区に対する気持ち 経年比較／性・年代別

### 1 足立区に愛着をもっている

全体	平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
	75.4	74.2	74.7	74.5	75.5	73.3	70.1	68.0	71.8

男性	平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	77.4	76.1	76.1	75.1	77.5	73.9	71.2	67.7	72.7
18～19歳	—	—	—	—	—	68.1	55.2	59.3	71.2
20代	66.7	68.4	74.6	72.5	62.7				
30代	67.7	74.5	65.1	69.5	80.0	56.8	58.2	53.0	75.8
40代	74.8	75.7	77.5	71.7	79.3	74.4	68.3	68.4	76.4
50代	82.1	82.9	76.0	81.6	79.7	78.7	71.8	71.8	66.4
60代	82.6	69.3	81.4	76.9	77.5	78.6	78.4	66.0	76.7
70歳以上	82.4	81.6	76.9	74.5	77.9	76.3	78.1	73.0	72.4

女性	平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	73.9	73.6	73.6	73.9	74.3	73.2	69.2	68.4	71.3
18～19歳	—	—	—	—	—	67.5	54.3	59.4	65.4
20代	66.3	72.5	64.9	59.1	66.3				
30代	66.7	66.9	74.5	73.7	75.0	72.7	62.3	59.3	65.0
40代	73.5	73.5	71.0	72.0	74.7	71.9	72.0	66.9	74.6
50代	75.7	74.0	74.7	79.2	73.2	74.7	72.3	69.7	76.8
60代	73.9	77.3	72.0	80.0	76.1	70.8	68.5	75.0	69.6
70歳以上	80.0	74.6	78.1	73.2	76.6	76.9	73.7	72.9	71.2

### 2 足立区に誇りをもっている

全体	平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
	51.4	49.2	49.7	52.6	53.4	45.6	42.5	37.6	43.5

男性	平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	56.1	51.5	52.7	55.6	56.8	48.9	43.6	38.8	44.7
18～19歳	—	—	—	—	—	43.1	23.9	25.4	32.7
20代	44.9	36.8	50.8	40.6	45.8				
30代	47.5	42.9	31.4	42.7	52.9	30.9	34.3	22.7	36.4
40代	51.9	54.9	51.2	52.5	50.7	41.4	40.0	28.9	43.8
50代	52.7	57.7	51.9	60.5	54.4	48.2	36.3	37.3	39.5
60代	59.7	46.0	54.3	58.7	62.0	53.4	45.9	44.7	46.5
70歳以上	68.2	59.9	62.3	62.8	64.2	61.1	58.7	53.0	53.3

女性	平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	47.8	47.7	47.5	50.1	50.9	43.1	41.6	36.9	43.1
18～19歳	—	—	—	—	—	28.9	31.4	22.8	38.3
20代	33.7	34.8	33.8	40.9	45.7				
30代	41.5	34.7	41.8	43.2	43.8	29.3	22.8	27.4	31.3
40代	42.7	47.1	36.6	43.9	50.0	39.5	32.2	37.9	47.5
50代	45.1	41.6	48.8	51.0	48.0	47.3	41.3	41.1	43.7
60代	50.3	58.2	44.8	54.2	47.2	35.4	42.5	34.2	40.0
70歳以上	60.0	55.5	63.9	57.3	61.1	56.0	57.0	44.7	47.7

### 3 足立区を人に勧めたい

全体	平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
	48.0	47.6	48.2	51.8	50.5	44.5	41.7	39.6	44.4

男性	平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	53.3	49.6	52.6	54.2	54.8	47.9	43.5	39.8	46.5
18～19歳	—	—	—	—	—	40.3	34.3	32.2	53.8
20代	43.6	42.1	59.3	46.4	42.4				
30代	48.5	49.0	47.7	62.2	68.6	34.6	46.3	40.9	51.5
40代	55.6	56.9	51.9	55.0	52.7	51.1	45.8	38.6	44.9
50代	50.9	52.0	53.5	57.8	51.3	51.1	39.5	40.8	46.2
60代	54.2	38.0	50.4	49.6	54.3	48.9	39.6	40.4	40.7
70歳以上	59.1	55.3	53.8	53.2	58.3	51.6	48.8	41.6	46.2

女性	平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	44.7	46.5	44.7	49.8	47.7	41.5	40.2	39.6	42.9
18～19歳	—	—	—	—	—	38.6	40.0	32.7	51.9
20代	41.6	43.5	36.4	43.9	46.7				
30代	40.0	42.4	48.2	53.4	50.9	48.5	36.8	45.1	47.5
40代	42.7	47.6	37.2	52.2	52.4	37.1	38.1	41.9	52.5
50代	47.9	42.2	47.5	55.0	43.0	46.0	37.4	47.4	45.7
60代	43.0	53.2	44.8	49.2	38.7	36.9	38.6	36.7	36.0
70歳以上	49.0	47.3	49.8	45.1	52.3	42.1	45.4	34.9	35.4

#### 4 足立区を良いまちにするために何かしたい

全体	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
	52.3	52.8	54.0	51.7	48.1	45.5	49.9

(%)

男性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	53.5	54.1	56.4	52.2	48.1	46.8	52.5
18～19歳	—	—	—	45.8	40.3	39.0	59.6
20代	45.8	39.1	44.1				
30代	52.3	56.1	57.1	44.4	47.8	43.9	62.1
40代	60.5	57.5	54.0	57.1	55.8	49.1	66.3
50代	57.4	58.8	57.0	56.7	50.0	49.3	53.8
60代	46.5	47.9	58.1	58.0	45.0	47.9	43.0
70歳以上	53.8	56.9	59.8	47.9	46.8	46.5	44.7

女性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	51.9	51.8	52.2	51.9	48.1	44.9	48.1
18～19歳	—	—	—	54.2	41.4	42.6	45.7
20代	41.6	39.4	41.3				
30代	54.5	51.7	58.0	58.6	43.9	48.7	51.3
40代	52.5	63.7	58.4	53.9	48.3	50.8	61.9
50代	52.5	60.4	53.6	58.7	58.1	49.7	57.0
60代	59.4	45.8	49.3	53.8	55.9	45.8	44.0
70歳以上	48.5	45.1	49.8	42.9	41.8	37.6	37.9

#### 5 足立区を良いまちにするための活動をしている人に共感する

全体	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
	75.7	75.3	77.7	74.0	70.7	69.8	73.0

(%)

男性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	75.1	75.0	77.5	71.8	70.7	69.2	71.8
18～19歳	—	—	—	66.7	59.7	62.7	67.3
20代	64.4	59.4	67.8				
30代	76.7	79.3	82.9	61.7	68.7	57.6	74.2
40代	76.7	80.0	75.3	78.9	77.5	71.9	78.7
50代	78.3	80.3	77.2	72.3	73.4	77.5	74.8
60代	75.2	72.7	76.7	80.2	69.4	67.0	62.8
70歳以上	74.5	72.9	80.9	66.8	70.1	68.6	71.4

女性	平成30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年
全体	76.4	75.6	77.8	76.4	70.9	70.3	74.2
18～19歳	—	—	—	72.3	68.6	66.3	71.6
20代	61.0	66.7	66.3				
30代	79.1	71.2	81.3	80.8	67.5	72.6	71.3
40代	80.3	80.3	84.3	80.2	66.1	76.6	82.2
50代	79.0	83.2	77.7	82.0	81.3	76.0	78.8
60代	82.5	75.0	81.7	75.4	78.0	72.5	76.0
70歳以上	71.7	72.8	74.1	70.7	65.3	63.1	68.3

## 区政の満足度と正の相関がみられる / 暮らしやすさ / 定住意向 / 情報の入手 / 治安

※各割合(%)は全体(1,421)に対する割合となっています。

## 1 「区政に満足している層」は&lt;暮らしやすい&gt;と感じている

	<区政満足度>					(%)
	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
<暮らしやすさ>	13.2	64.5	15.8	3.4	3.0	
暮らしやすい	8.4	18.0	1.9	0.1	0.4	
どちらかといえば暮らしやすい	4.4	40.5	9.0	1.5	1.8	
どちらかといえば暮らしにくい	0.2	4.4	3.9	1.1	0.4	
暮らしにくい	0.0	0.8	0.8	0.7	0.1	
《暮らしやすい・計》	71.3		12.5			

## 2 「区政に満足している層」は&lt;住み続けたい&gt;と考えている

	<区政満足度>					(%)
	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
<定住意向>	13.2	64.5	15.8	3.4	3.0	
ずっと住み続けたい	9.1	24.4	3.4	0.3	1.3	
当分は住み続けたい	3.4	31.0	7.7	1.0	1.1	
区外に転出したい	0.2	2.4	2.1	1.2	0.1	
わからない	0.4	6.2	2.5	0.9	0.6	
《住み続けたい・計》	67.9		12.4			

## 3 「区政に満足している層」は&lt;区の情報得られている&gt;

	<区政満足度>					(%)
	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
<区の情報入手状況>	13.2	64.5	15.8	3.4	3.0	
十分に得られている	1.3	2.0	0.2	0.0	0.2	
ある程度得られている	9.4	47.4	8.7	1.3	2.1	
得られないことが多い	0.7	7.8	3.9	0.8	0.3	
まったく得られない	0.5	1.0	0.6	0.1	0.1	
必要と思ったことがない	0.4	3.1	1.3	0.5	0.1	
区の情報に関心がない	0.6	2.0	0.8	0.7	0.1	
《情報が得られている・計》	60.1		10.2			

## 4 「区政に満足している層」は&lt;地域の治安が良い&gt;と感じている

	<区政満足度>					(%)
	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答	
<地域の治安状況>	13.2	64.5	15.8	3.4	3.0	
良い	3.7	5.5	0.4	0.1	0.4	
どちらかといえば良い	7.0	39.3	6.1	0.6	1.5	
どちらかといえば悪い	1.1	11.4	5.3	1.1	0.4	
悪い	0.1	1.1	1.6	0.8	0.1	
わからない	0.6	6.3	2.0	0.6	0.4	
《地域の治安が良い・計》	55.5		7.2			

